

第4章 まちづくりの方針

1. まちづくりの方針

1) 将来都市像

人口減少や少子高齢化の進展、住民の価値観やニーズの多様化、国際化や高度情報化の進展など、本町を取り巻く社会情勢は変化し続けています。このような状況に対応するだけでなく、本町の恵まれた環境を活かし、活気ある地域経済を目指すとともに、安全安心な生活環境の実現に向けて、住民が主体となった協働のまちづくりを展開していくことが求められています。

まちの都市像は、本町のまちづくりの上位計画である「川西町第3次総合計画」において定められる目指すべき将来像をふまえるものとします。

まちの将来像

安心 すくすく 豊かな心を育む かわにし

2) まちづくりの方針

①拠点や市街地における居住環境の維持・向上

住民の多様なライフスタイルや居住選択を尊重しながら、高い利便性が得られる拠点や市街地などに、時間をかけて緩やかに居住の促進を図ることで、生活サービスや地域コミュニティの持続的な維持・確保を目指します。

②公共交通による安全・快適な移動環境の確保

今後、さらなる人口減少や高齢化が進む中では、鉄道やバス等の公共交通を基本に地域内の身近な交通などによる拠点間のアクセスを確保するとともに、歩行者や自転車の利用環境を向上することにより、過度に自動車に依存することなく、誰もが安全・快適に公共交通で移動できる環境を創出することを目指します。

③人や企業が集まる都市環境維持・向上

本町は良好な交通アクセスを有しています。この恵まれた立地条件を生かして、広域連携軸の沿道に不足する都市機能の立地を目指して、企業や商業施設の誘致を進め、人や企業が集まるまちづくりに取り組みます。

④居住や都市機能を誘導する区域が設定されない地域への適切な対応

居住や都市機能を誘導する区域が設定されない地域においても、生活サービス機能や公共交通を確保するとともに、居住人口を確保し地域コミュニティの維持・向上に努めます。

また、無秩序な土地利用を防止し、優良な農地や豊かな自然環境を保全します。

2. 将来都市構造

(1) エリア区分

■市街地エリア

用途地域や地区計画など土地利用のルールを定め、計画的なまちづくりを進めます。都市機能を誘導し、集約することにより、日常生活に必要なサービスを持続的に確保できる市街地の形成を進めます。

■既存居住エリア

既に整備された都市基盤を活かし、無秩序な土地利用を防ぎ、良好な居住環境の維持・向上を目指した住宅を中心としたまちづくりを進めます。

■田園居住エリア

無秩序な土地利用を防ぎ、優良な農地や豊かな自然環境の保全と産業の活性化とのバランスを考慮しながら、地域の事情に応じたまちづくりを進めます。自然と農業環境との調和を大切にし、持続可能なコミュニティ及び集落の形成を進めます。

(2) 拠点づくりの目標

■教育交流拠点

役場を中心とした公共施設、教育施設、文化施設等の集積を維持し、本町の行政サービスと教育文化の拠点としての機能維持及び強化を進めます。

■にぎわい交流拠点

本町の玄関口として、結崎駅周辺地域への交流機能と利便性を高め、商業施設等の誘導を図ります。情報発信とてなしの空間となる交流施設や情報発信機能の整備を進め、都市機能の充実を進めます。

■産業交流拠点

本町の広域連携軸（都市計画道路）の沿道に、商業施設または商業施設との親和性の高い企業等の誘導を図ります。将来に続くまちづくりを進めるため、町民及び道路利用者の利便性を高めるとともに、町外からの来訪者の増加を図り賑わいと交流を創出し、地域経済の活性化が図られるよう、拠点形成を進めます。

■産業拠点

既存の結崎工業団地、拡張した唐院工業団地においても、周辺の緑地環境及び景観に配慮しながら、産業系土地利用の推進や、産業拠点としての機能維持とその強化を進めます。

■歴史やすらぎ拠点

島の山古墳をはじめとする歴史資源の保全に努め、歴史及び文化的遺産を伝える場として、生涯学習及び観光振興への活用を進めます。

■社会福祉拠点

既存の社会福祉施設の維持を図るとともに、農地保全、社会福祉環境の充実の観点から、既存の居住区域に近い県道天理王寺線南側で、新たな社会福祉施設を集積するよう拠点整備を進めます。

■健康増進拠点

まほろば健康パークの機能強化や大和平野中央田園都市構想によるウェルネスタウンの形成といった奈良県が進める事業による施設整備に合わせ、本町としてもこれらの施設の活用が図られるよう、都市基盤の整備を進めます。

(3) 軸づくりの目標

■広域連携軸

県道天理王寺線、県道大和郡山広陵線、県道結崎田原本線、京奈和自動車道及び近鉄橿原線を軸として、隣接する市町村をはじめとする県内外の主要都市間との広域連携を形成します。

■地域生活軸

県道大和郡山広陵線、町道結崎線、町道結崎吐田線、町道結崎下永線を軸として、生活拠点を中心とした地域生活圏の利便性や機能性を確保するため、町内の各拠点や集落間の地域連携を形成します。

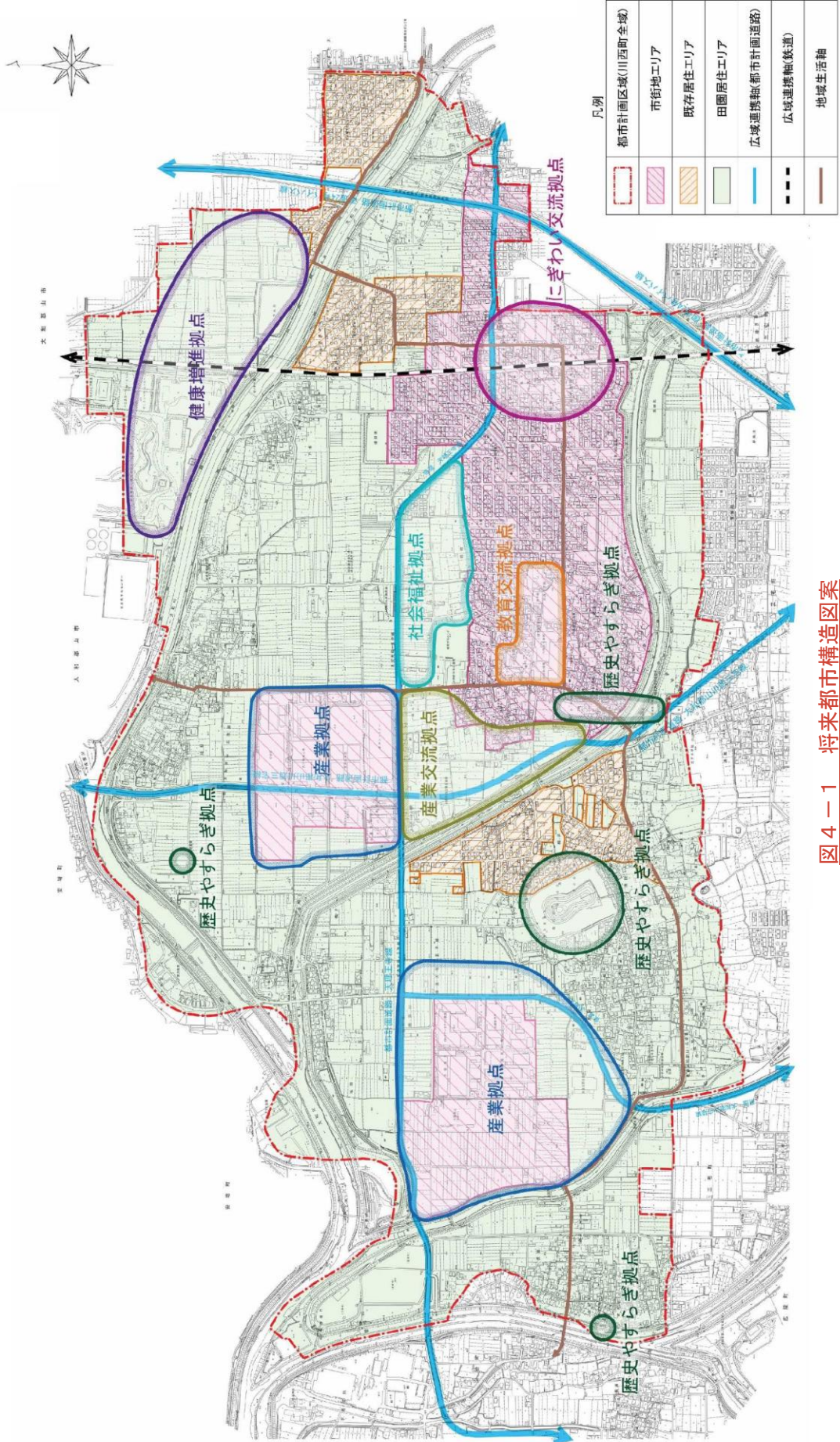


図4-1 将来都市構造図案